

## 特集：私の教育システム情報学マップ：問いの体系化に向けて

## 「問い」でつながる教育システム情報学研究

近藤 伸彦\*

A Discussion on Research on Information and Systems in Education  
Linked through Research Questions

Nobuhiko KONDO\*

Since the field of information and systems in education is an interdisciplinary field, there is a wide range of research questions that can be tackled in this field. By systematizing and mapping the research questions in this field, researchers in this field can deepen their own research questions, which is expected to lead to the activation of the research field. In this paper, I will discuss the issues that need to be considered in order to systematize such research questions and develop a mapping system.

キーワード：教育システム情報学, 「問い」の体系化, 研究マップ

## 1. はじめに

教育システム情報学分野はその学際的な性格上、ここで扱われる学術的な「問い」は幅広い。本分野における「問い」を体系化し、何らかのマッピングをしようとするとき、そのマッピングの切り口や実現方法は、マップの使用目的に応じてさまざまに考えるであろう。

別の表現をすると、「問い」の体系化やマッピングという試み自体に何らかの「問い」があるはずであり、その「問い」に応じて適切なマッピングのあり方が導かれる、といえそうである。そこで、本分野における「問い」を体系化しマッピングすることに関する「問い」とはどのようなものかをまず考えてみたい。

まず、「問い」を体系化する、という営み自体を、  
(d1) 教育システム情報学における「問い」はどのように体系化するのか  
と表現してみる。(d1)に取り組むには、  
(d2) 教育システム情報学で扱う「問い」とはどのようなものか(どのようなものがあるか)

ということを考えねばならない。さらに、(d2)に答えるためには、

(d3-1) 教育システム情報学とはどのような学問分野か

(d3-2) 「問い」とはどのようなものか

のような二つのより根本的な「問い」に向き合わざるを得ず、これら自体を整理・検討する必要があるだろう。

ここで、そもそも(d1)により「問い」の体系化を試みる背後には、

(p1) 教育システム情報学における自身あるいは各研究の位置づけを「問い」の観点から研究者が認識するためには、どのような仕組みが必要か

という「問い」があるであろう。ここで、体系化された「問い」の構造を用いてこの「仕組み」を実現するために、何らかのマッピング(もしくはより広くビジュアライゼーション)という手法をとるということになる。

さらに、(p1)の上位には、

(p2) 教育システム情報学に関する学術的な「問い」

\* 東京都立大学大学教育センター (University Education Center, Tokyo Metropolitan University)